

5年生のみなさんへ4

「山の家から帰ってくる日やったなあ…」と先生二人はため息いきをついています。昨夜さくばんの花背は雨。キャンプファイアはキャンドルサービスになっていたことでしょう。

でも、こうやってみなさんと「元気？」と言ひ合えていることが一番大事。いろいろな人の命を守るために、できるだけ努力をしましょう。そして、新しい生活の中での授業再開に向けての努力もやっていきましょう。

5月1日に配った「休校中予習のすすめ4」は、5月7日から15日までの分の学習課題をプリントにしました。進み具合はいかがでしょうか。

これだけ長い期間学校の授業からはなれていると、学習のリズムを作るのがおぼつかしくなってきますよね。ふだんは学習のリズムというものを気にしていませんが、学校での学習があることで生活のリズムが自然とでき、自分なりの学習のリズムというものができていました。今は、自分で学習のリズムを作らなければいけないので、こんなことは初めてのことだと思ひます。

まずは、起きる時こくを決めて、それを守るということ。意地でも毎日ご家族と決めた時こくに起きるようにしましょう。それが一番大事です。

今週には「学校ポスト」が設置されます。来週18日からは、希望制による「学習相談・面談」があるということも京都市教育委員会から発表されました。少しずつですが、学校再開に向けて動き出している気配が出て来ました。今週からみなさんも、少しずつ学校再開を思ひうかべながら生活し、学習に取り組んでほしいと思ひます。

今週後半には、5月18日から29日までの学習課題を配ります。今日から、学習のリズムを気にかけて生活していきましょう。

理科 生命のつながり〔2〕 メダカのたんじょう

ある学校のホームページを見ていると、メダカのたまごのようすの写真が出ていました。本校のメダカたちは、ろう下におかれた水そうで10匹ぐらいの集団で生きています。たまごはまだ産んでいません。



これだけいると、ちょっとたまごは産みづらそう…。

みなさんと授業ができるようになったら、3、4匹ずつに分けて、班ごとにたまごを産ませるように育ててほしいと思ひて、小さい水そうを用意しています。がんばってね。

この学習では、生命のつながりを学習します。命あるものが小さな命を産み、そのちいさいのちがけんめいに育とうとする力を学習してほしいのです。

今、まさにそういうすがたを、別の生き物がいとなんでいます。そう、「5年生のみなさんへ2」でお知らせしたサカマキガイです。連休明けの7日に見てみました。

このたまごを大きくしてみました。



目があるのですよ！ そして元気に動き回っています。プニプニのゼリーじょう状のふくろの中であっち行ったりこっち行ったり。中には、プニプニのふくろからとびだして、生まれている子もいました。

それがこちら。↓



いやあ、かわいいですよ。みなさんにも見てもらいたいな。

インターネットで調べてみると、サカマキガイとはヨーロッパ原産の^{まきがい}巻貝です。しばしば水そうの中で大発生して、魚を見にくくしてしまい取りのぞかれたりするようですが、まあ言ってしまうえばカタツムリの仲間。見ようによってはかわいいもの。<https://www.dainippon-tosho.co.jp/yagi/> にくわしく書いてありますので、見られる人はぜひどうぞ。

「サカマキガイ」で^{けんさく}検索してみると、「水面を逆さまにはうサカマキガイの^{ひみつ}秘密」という、中学2年生が研究したページもありました。そんなところも見てみたいなあ。

いろいろなところに生命のつながりというものがあるのですね。

理科 生命のつながり〔3〕 植物の実や種子のでき方

この学習では、花の中にあるおしべとめしべの役割について学習します。アサガオの花を使います。アサガオと言えば、ヒマワリとならぶ夏の花の代表格。ヒルガオ科でサツマイモの仲間です。奈良時代と言いますから、今から1300年ほど前に中国からやってきました。来たころは薬草として使われていたんだって。花を見るためにつくられ始めたのは江戸時代のころ。そのころから日本人に親しまれてきました。

みなさんも一年生の時にさかせたと思いますが、今回も一年生が使う種子と同じ種子を使います。これがまたよくさくのですよ。先週の木曜日にまきました。いつ芽を出すのか、とても楽しみです。



理科 天気と情報〔3〕 天気の変化

このお知らせのページに、「雲とアメダス」というリンクがあります。ここ2、3日の雲の動きと、それと同じ時こくのアメダスの^{こうすいりょう}降水量の記録を、アニメーション風につなげました。ちょっと見にくいかもしれませんが、雲のだいたいの動きと雨のふり方が関係していることがわかると思います。あとで見てください。

社会 米づくりのくふう

市原野や静原の水田では、今まさに田植えのシーズン。あちらこちらで田植え機が活やくしています。

機械でやるからかんたんだろうと思ったら大まちがい。大切に育ててきた稲の苗をていねいに積みこむこともけっこう大変な作業。もちろん田植えをするまでの用意からあとしまつまで仕事はいっぱいです。そして、機械では植えられない水田の角あたりは、手で植えます。この手植えの作業をつづけると、こしがいたくなるんですね。



もしも見られるようなら、ぜひ田植えの様子を見ておいてください。植えられた稲の苗がどのように育てられていくのか、授業でも学習しますが、自分の目で見ておくのが一番ですね。

国語 本は友達

(本の紹介ではありません。先生たちが読んだちょっとした感想です。)



1月にテレビ放映された「教場」という木村拓哉主演のドラマの原作本が、「教場1・2」です。この「教場1・2」を昨年末に読み、それからドラマを見たので、木村拓哉の演技力に圧倒されました。「教場1・2」は、警察学校が舞台。その中での厳しい教官と警察官を目指す若者とのかわりを描いたものです。「教場0」は、主人公の教官が刑事だったころのお話。どのような刑事で、なぜ警察学校の教官となったのかを描いた物語です。木村拓哉の迫真の演技を思いながら読んだ

ので、映像が目に浮かんできて仕方がありませんでした。ずっと以前「A | 崩壊」という小説を読んだことがあるのですが、この小説も読みながらなぜか映像が目に浮かんできました。そしたら、先日映画化されていたと知り、読んでいて映像が思い浮かぶものは、ドラマや映画になりやすいのかなあ、とあってしまいます。今度「明智光秀」に関する本を読みたいのですが、読んでいくと「麒麟がくる」のシーンが目に浮かんでしまうだろうな、と迷っています。ひょっとして、先生がテレビや映画の見すぎなのかも…。(諏訪)



2019年1月に公開された「マスカレード・ホテル」という木村拓哉、長澤まさみ主演映画の原作本です。少し前、テレビドラマでも放送していたので、知っている人もいるかもしれませんね。推理小説の好きにはたまらない「東野圭吾作品」だったので、映画館に足を運びました。テンポよく進む物語、そして主演2人を中心とした演技力に引き込まれました。映画のおもしろさから、もっと詳しくトリックを知りたいと思い、原作本に手を出しました。舞台は連続殺人事件の、次の現場と疑われた高級ホテル。木村拓哉が演じる「人を疑うことが仕事」の警察と、長澤まさみが演じる「お客様を信じるのが仕事」のホテルスタッフの掛け合いを通して、事件の謎が少しずつ解き明かされます。映像を先に見たためか、舞台をイメージしやすく、一晩で読み切ってしまいました。続編の「マスカレード・イブ」が発売されていることを知ったので、手をのばそうか今考え中です。さらに、好きなテレビドラマシリーズ「相棒」の小説にも興味があります。どの本を読もうか、今からわくわくしますね。(廣瀬)